

平成30年6月16日現在

機関番号：33301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01874

研究課題名(和文) 在日チベット人におけるネットワーク形成と共同性の再構築・維持

研究課題名(英文) The Creation of Community Network and the Remaking of Communal Connectedness among Tibetans in Japan

研究代表者

山田 孝子 (YAMADA, Takako)

金沢星稜大学・人文学部・教授

研究者番号：20293839

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：ダライ・ラマのインド亡命から60年経過するなかで、在日チベット人はチベット本土出身者を含め約220人を数える。本研究では、在日チベット人社会における伝統文化や共同性の再構築・維持のメカニズムを、ネットワーク形成と情報発信、イベントなどの集いあう場、日・蔵関係の歴史的展開などに着目し、分析した。在日チベット人は、デジタル・メディア活用による国内外とのネットワーク形成とチベット関連情報の発信、明治以降の緊密な日・蔵関係や仏教を介した宗教的連帯、日本社会からの多方面の支援活動などの日・蔵の双方向交流を背景に、日本における伝統文化と共同性の再構築・維持を展開してきたことが明らかにされた。

研究成果の概要(英文)：In the sixty years since the exodus of the Dalai Lama to India, around 220 Tibetans, including those from Tibet, have resettled in Japan. This study explores the remaking and maintaining of communal connectedness and Tibetan culture among the Tibetans in Japan in terms of (1) the information strategies used for creating community networks through digital media, (2) the remaking of common meeting grounds, and (3) the development of Japan-Tibet relations. The study revealed not only intimate political and religious Japan-Tibet relations that have existed since the Meiji era but also modern Tibetans' utilization of digital media in Japan for dispatching information on Tibet and Tibetans. This two-way inter-communication between the two has enabled Tibetans to remake and maintain their communal connectedness and Tibetan culture.

研究分野：人文学

キーワード：文化人類学 在日チベット人 ネットワーク形成 共同性再構築

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 1990年代以降の社会状況は、近代化やグローバル化の予想に反し、ローカルな価値や伝統宗教の見直しと、それに基づく共同性やコミュニティの再構築に特徴があり、移住者コミュニティにおいてもその統合に果たすローカルな価値や宗教の役割の重要性が指摘されてきた。研究代表者は、これまでの研究により社会の動態的過程のなかで、伝統文化・宗教の再活性化はエスニック・アイデンティティの再構築と連携するばかりではなく、ミクロ・リージョナルな繋がりがあえる場(絆)の再形成を促すことを指摘してきた。

(2) 1959年のダライ・ラマ14世のインド亡命から約60年の経過のなかで、チベット難民はインド・ネパール、ブータン以外に欧米諸国、台湾、日本など、28か国以上の世界各地に居住する。欧米諸国に再定住したチベット難民がトランスナショナルに生きるなかでのローカルな場と共同性の再構築においては、統一のシンボルとなるダライ・ラマ14世の存在、インターネットを介した超域的ネットワークの形成、チベット亡命政府及び在住チベット人の政治的リーダーシップの存在、さらにはホスト国の受け入れ体制などが、コミュニティ維持において重要な役割を果たすことが明らかにされてきた。

(3) 日本においては、1970年代に教育支援で来日したチベット難民の少年・少女を皮切りに、チベット難民の日本への再定住が進み、今日、在日チベット人はチベット本土出身者も含め220人近くとなるが、在日チベット人の実態は十分には明らかにされていない。在日チベット人のネットワーク形成と共同性の再構築・維持のメカニズムの解明は、ホスト国日本での彼らの生活戦略と同時に、日本社会が抱える多民族との共存に向けての課題を浮き彫りにさせ、日本社会に対し多文化共生を考える上での示唆を与える大きな意義がある。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、グローバル化に逆行する形で生成・維持される民族的共同体がいかなる有機的連繋と自立性によって展開されるのか、そして多文化共生社会の実現には何が求められるのかの解明を全体構想とし、日本各地に居住する在日チベット人を対象に、伝統文化や共同性の維持・展開メカニズムを、ネットワーク形成、集いあう場、日蔵関係の歴史的展開と日本社会との共生・共存関係などに着目し、人類学的視点から解明することを目的とするものである。

(2) 具体的には、日本における日蔵関係の歴史的展開とマス・メディアによるチベット関連情報の発信性、在日チベット人社会におけるネットワーク形成をとおした情報

発信・共有性および集いあう場の共有と共同性再構築、日本人の在日チベット人、チベット問題に対するまなざし、在日チベット人との双方向交流、日本におけるチベット人の共存の実態を明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1) 文献資料調査、インターネットによって発信される情報の収集、全国紙のデータベースを利用したチベット関連記事の収集、および各地で開催されるチベット関連イベントにおける参与観察と聞き取りを中心とする文化人類学的フィールド調査からなる。

(2) フィールド調査における参与観察、聞き取りにおいては、デジタルカメラ、ICレコーダーなどの機器によりフィールドデータの記録と収集を行った。情報資料収集は、東洋文庫、大学付属図書館等を利用してのチベット関連文献資料の収集、インターネットを利用して発信されるチベット関連情報の収集、京都大学付属図書館所蔵の新聞データベース(『聞蔵 ビジュアル』、『毎索』、『ヨミダス歴史館』、『The Times Digital Archives』)、産経新聞データベース(The Sankei Archives)を利用したチベット関連記事情報の収集からなる。これらの収集データの整理、解析を行った。

## 4. 研究成果

(1) 平成27年度においては、国内で開催されたダライ・ラマ14世による2015年来日法話、Tibet Festival Japan 2015、ダライ・ラマ14世誕生日祝賀会、映画「ダライ・ラマ14世」の上映会、南インドのタシルンポ僧院で開催されたダライ・ラマ法話会など、チベット関連イベントを対象にフィールド調査を実施し、分析を進めた。また、主要全国紙(朝日、毎日、読売、産経)のデータベースを利用し、1945年から2014年におけるチベット関連記事の収集、整理、分析をするとともに、チベット亡命政府(Central Tibetan Administration)などが発信する情報の収集、整理、解析を行った。平成28年度においては、国内におけるチベット関連イベントを対象とするフィールド調査を継続するとともに、インドのブッダガヤで開催されたダライ・ラマ14世によるカーラチャクラ灌頂伝授会の参与観察を実施した。また、主要全国紙のデータベースを利用したチベット関連記事の分析、チベット亡命政府などが発信する情報の実態把握と情報収集、整理、解析を継続するとともに、デジタル・メディアを活用した在日チベット人社会のネットワーク形成の実態を分析した。さらに、中間研究成果を国際チベット学会(IATS)第14回セミナー(平成28年6月19~24日、ノルウェー、ベルゲン大学)において研究発表し、また東アジア人類学協会(EAAA)2016年次大会(平成28年10月15~16日、北海道大学)

において、分科会を組織して研究発表し、レビューを受けた。平成 29 年度においては、国内におけるチベット関連イベントを対象とするフィールド調査の継続、主要全国紙のデータベースを利用したチベット関連記事の整理、分析の継続とともに、在日チベット人社会のネットワーク形成の実態、インドのダラムサラをベースとするチベット亡命政府による発信情報などの解析をした。さらに、これまでの研究成果を、「第 51 回日本文化人類学会研究大会（平成 29 年 5 月 27～28 日、神戸大学）における分科会を組織しての研究発表、国際シャマニズム研究学会（ISARS）平成 29 年 12 月 1～4 日、ハノイ、ベトナム民族学博物館）における研究発表をし、レビューを受けた。

(2) 日蔵関係の戦前までの歴史からは、浄土真宗大谷派による中国開教活動や新たな仏典を求めての河口慧海によるチベット行というチベットに対する宗教上の関心とともに、1910 年代の軍事専門家としての矢島保治郎のチベット滞在、1940 年代における特務機関員としての木村肥佐生らのチベット潜行という軍事的、地政学的な関心が向けられていたことが明らかにされた。全国紙のチベット関連記事の分析からは、1950 年の人民解放軍のラサ侵攻、1959 年のダライ・ラマ 14 世のインド亡命によるチベット問題の発生とその後のチベット情勢の推移について多くの紙面が割かれ報道されたことが明らかにされた。チベット問題発生と同時に、全日本宗教政治連盟によるチベット救援準備室設立、仏教政治協議会によるダライ・ラマ救援の声明、全日本仏教会によるチベット支援に向けての声明など、日本の仏教界が明治期以来の宗教的・政治的緊密な日蔵関係を背景にチベット救済運動を展開し、その後のチベット難民受け入れの土壌を形成していたことが明らかにされた。

(3) 在日チベット人社会は、木村肥佐生の奔走によって 1965 年から 1970 年にかけて 21 人の少年少女が埼玉県毛呂山病院長夫妻に受け入れられたのに端を発し、その後の成田山新勝寺による留学生の受け入れ、1990 年代以降のチベット本土からの国費留学生、私費留学生の来日、2000 年から 2008 年にかけての NPO チベット教育福祉基金と国際海洋学園による留学生の受け入れなどにより発展してきたことが明らかにされた。在日チベット人は、2010 年代にはデジタル・メディアを活用し、独自のウェブサイト「在日チベット人コミュニティ」を立ち上げ、新たな形でのコミュニケーションの共有性を図ってきたこと、これによりチベット人と日本人との間での双方向的情報共有と相互理解の促進とともに、在日チベット人コミュニティにとっては集いあう場の共有と共同性の再構築・維持が担保されてきたことが明らかにさ

れた。

(4) 日本人のチベットに対する関わりをみると、ダライ・ラマ 14 世の法話会などには、多くの日本人の参加があり、日本人の間にチベット仏教をとおしてのチベットへの関心の拡がりが見られると同時に、「宗派を超えてチベットの平和を祈念し行動する僧侶・在家の会（略称：スーパーサンガ）」、チベットサポートグループ KIKU、チベットに関するドキュメンタリー・フィルムの制作や上映など、日本人による多方面の支援活動の継続が明らかにされた。欧米諸国においては、人権問題への対処を背景とする政府主導の難民支援がみられるのに対し、日本では、チベットからの国費留学生の受け入れを除き、個人あるいは民間の団体によるチベット難民の受け入れであったが、在日チベット人の日本における再定住成功の背景には仏教徒としての親密性や倫理的共通性にもとづく信頼関係があることが明らかにされた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 16 件)

山田孝子、2018「在日チベット人社会の形成・維持と日本におけるチベット難民支援 - 1965 年から 2014 年の展開をとおして - 」『金沢星稜大学人文学研究』2(2):1-32。(査読無)

Yamada, Takako, 2017. "Shamanism and Buddhism as Religions Expanding the Boundaries of Ethnicities and Spirituality" *Books of Abstracts of International Conference on "Expanding Boundaries: Ethnicity, Materiality and Spirituality," Vietnam Museum of Ethnology, Hanoi, 1-4 Dec.2017*, pp. 112-113. (査読有)

Yamada, Takako, 2017. "Creating Networks and Sharing Communications through Digital Media: A Survival Strategy of Tibetans in Japan". *Kanazawa Seiryu University Bulletin of the Humanities* 2(1): 1-11. (査読無)

煎本 孝、2017「ダライ・ラマ法王によるカーラチャクラ灌頂と世界平和の構築 (2)」*Tibet Journal* 2017, Summer, pp. 23-30. (査読有)

山田孝子、2017「デジタル・メディア活用によるコミュニケーションの共有性：在日チベット人社会のコミュニティ維持にむけて」『日本文化人類学会第 51 回研究大会要旨集』、日本文化人類学会第 51 回研究大会準備委員会、28 頁。(査読有)

山田孝子、2017「流動化する世界とコミュニケーションの共有性」『日本文化人類学会第 51 回研究大会要旨集』、日本文化人類

学会第51回研究大会準備委員会、27頁。(査読有)

煎本 孝、2017「トランス・ヒマラヤ・フェスティバルと共有されるコミュニケーション」『日本文化人類学会第51回研究大会発表要旨集』日本文化人類学会第51回研究大会準備委員会、29頁。(査読有)

煎本 孝、2017「ダライ・ラマ法王によるカーラチャクラ灌頂と世界平和の構築(1)」*Tibet Journal* 2017, Spring, pp. 24-28. (査読有)

山田孝子、2016「日本のマス・メディアにみる1945-64年のチベット報道：チベット問題発生にいかに対処したのか」『金沢星稜大学人文学研究』1(1):11-40。(査読無)

Yamada, Takako, 2016. "Leadership and Empathy in the Remaking of Communal Connectedness among Tibetans in Toronto". In: Yamada, T. & T. Fujimoto (eds.), *Migration and the Remaking of Ethnic/Micro-Regional Connectedness*, Senri Ethnological Studies no. 93, Suita, Osaka: National Museum of Ethnology, pp. 241-273. (査読有)

Yamada, Takako and Toko Fujimoto, 2016. "Introduction". In: Yamada, T. & T. Fujimoto (eds.), *Migration and the Remaking of Ethnic/Micro-Regional Connectedness*, Senri Ethnological Studies no. 93, Suita, Osaka: National Museum of Ethnology, pp. 1-11. (査読有)

煎本 孝、2016「トランス・ヒマラヤ・ネットワークの形成と日本在住亡命チベット人の役割」『チベット学会報』3:1-9. (<http://d.hatena.ne.jp/tibetgakkai/>) (査読有)

山田孝子、2015「ホスト社会における難民の自己再定置と共同性再構築・維持 - トロント・チベット人社会の事例から」『生態人類学会ニュースレター』21:24-29。(査読有)

煎本 孝、2015「Tibet Festival Japan 2015 - チベット・フェスティバル 2015 を通じたチベットと日本の文化交流 - 」*Tibet Journal* (『チベット通信』)2015, Autumn, pp. 10-19. (査読有)

山田孝子、2015「ホスト社会における難民の自己再定置と共同性再構築・維持 - トロント・チベット人社会の事例から」『金沢星稜大学人間科学研究』9(1):83-90。(査読無)

Takashi Irimoto, 2015. "If there is no culture, there is no history...": Traditional Culture among Northern Kamchatka Reindeer Herders in the Post-Soviet Period. *Quaestio Rossica*, No.3, pp.227-242. ISSN 2311-911X(print), ISSN2313-6871(online) (査読有)

Yamada, Takako, 2017. "Leadership and Community Maintenance: Learning a Lesson from Tibetans' Struggle for Constructing a Communal Space in Toronto". International Conference on "Community Maintenance in Periphery", December 16-17, 2017, International Institute for Okinawan Studies, University of the Ryukyus, Okinawa.

Yamada, Takako, 2017. "Shamanism and Buddhism as Religions Expanding the Boundaries of Ethnicities and Spirituality", International Conference on "Expanding Boundaries: Ethnicity, Materiality, and Spirituality", International Conference of ISARS (International Society for Academic Shamanistic Research), December 1-4, 2017, Vietnam Museum of Ethnology, Hanoi, Vietnam.

Yamada, Takako, 2017. "Reappraisal of the Revitalization of Sakha Shamanism: What roles did shamanism play in the early 1990s?", Presented at Session 51, XII Congress of Anthropology and Ethnology of Russia, July 3-6, 2017, Izhevsk, Russia.

山田孝子、2017「流動化する世界とコミュニケーションの共有性」(分科会趣旨説明)日本文化人類学会第51回研究大会、2017年5月27-28日、神戸大学(兵庫県神戸市)。

山田孝子、2017「デジタル・メディア活用によるコミュニケーションの共有性：在日チベット人社会のコミュニティ維持にむけて」(分科会『流動化する世界とコミュニケーションの共有性』)日本文化人類学会第51回研究大会、2017年5月27日~5月28日、神戸大学(兵庫県神戸市)。

煎本 孝、2017「トランス・ヒマラヤ・フェスティバルと共有されるコミュニケーション」(分科会『流動化する世界とコミュニケーションの共有性』)日本文化人類学会第51回研究大会、2017年5月27-28日、神戸大学(兵庫県神戸市)。

Yamada, Takako, 2016. "Creating Networks and Sharing Communications through Digital Media: A Survival Strategy of Tibetans in Japan", East Asian Anthropological Association 2016 Annual Meeting, October 15-16, 2016, Hokkaido University, Sapporo.

Yamada, Takako, 2016. "Panel: Creating a Trans-Boundary Network and Shared Communication in the Changing Landscape of Asian Societies", East Asian Anthropological Association 2016 Annual Meeting, October 15-16, 2016, Hokkaido University, Sapporo.

Irimoto, Takashi, 2016. "A Discussion on the Reasons Underlying the Formation

of Trans-boundary Networks and Shared Communication: With a Focus on the Trans-Himalayan Network”, East Asian Anthropological Association 2016 Annual Meeting, October 15-16, 2016, Hokkaido University, Sapporo.

Yamada, Takako, 2016. “Japanese mass media’s role in dissemination information on Tibetan issues and culture”, 14th Seminar of the IATS (International Association for Tibetan Studies), 19-24 June 2016, University of Bergen, Bergen, Norway.

山田孝子、2015「地域社会における共同性再構築と伝統的価値観・規範の再活性化」シンポジウム「仏法はどう日本社会の為に役立つか」ケンポ・ソダルジェ・リンポチェ訪日事務局、2015年11月15日、大手町サンケイプラザ4Fホール（東京都千代田区）

山田孝子、2015「難民社会にみるホスト社会との共生戦略 - トロント・チベット人社会の事例より」分科会「多元的結合と下からの共生 - アジアにおける移民・難民の視点から - 」日本文化人類学会第49回研究大会、2015年5月30日～31日、大阪国際交流センター（大阪市）

〔図書〕(計 1 件)

Yamada, Takako & Toko Fujimoto (eds.), 2016. *Migration and the Remaking of Ethnic/Micro-Regional Connectedness*, Senri Ethnological Studies no. 93, Suita, Osaka: National Museum of Ethnology. (<http://hdl.handle.net/10502/00006077>)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田孝子 (YAMADA, Takako)  
金沢星稜大学・人文学部・教授  
研究者番号：20293839

(2) 研究分担者

煎本 孝 (IRIMOTO, Takashi)  
北海道大学・文学研究科・名誉教授  
研究者番号：50124227